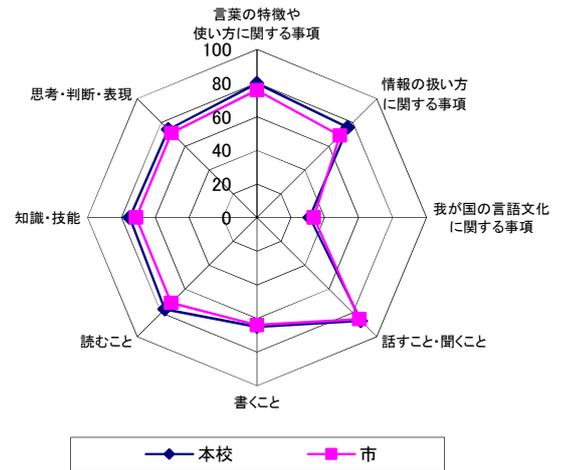


宇都宮市立陽東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	79.9	75.8	77.5
	情報の扱い方に関する事項	75.9	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	31.0	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	86.8	85.5	86.5
	書くこと	64.9	63.9	65.8
	読むこと	77.0	71.6	69.5
観点別	知識・技能	75.1	71.3	72.9
	思考・判断・表現	74.1	71.3	71.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

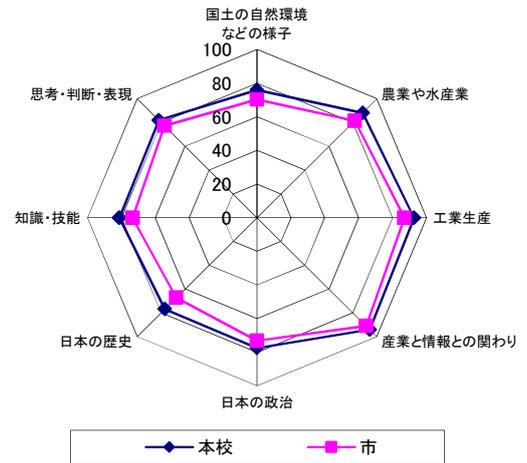
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を4.1ポイント上回っている。 ○第6学年の配当漢字を読んだり、書いたりする問題では、全ての設問で市の平均正答率を上回っている。 ●正しい敬語の使い方を問われた問題では、市の平均正答率を2.4ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字や熟語については、引き続きプリントやドリルなどを用いた繰り返しの学習を行うとともに、文章の中で適切な漢字を使うように習熟を図る。 ・定期的に敬語の使い方を復習する機会をつくるとともに、日常生活の中でも敬語を意識して使うことができるよう声掛けをしていく。
情報の扱い方に関する事項	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を6.8ポイント上回っている。 ○文中に表されている原因と結果を読み取る問題では、語順に惑わされず、情報と情報の関係を正しく判断することのできた児童が75.9%であった。	・複数の情報の関係を理解し、目的に応じた文章を書く力を伸ばすために、文章を読んで要約したり、キーワードを抜き出したりと、的確に話題を捉えて表現する活動を引き続き取り入れていく。
我が国の言語文化に関する事項	●領域の平均正答率は、市の平均正答率を2.5ポイント下回った。 ●和語・漢語・外来語の組み合わせを正しく選択する問題では、語句の由来についての理解が不足し、和語と漢語を混同している児童が70%近く見られた。	・和語・漢語・外来語への理解を深め、言語文化への興味・関心が高まるよう、古文や漢文等様々な文章に触れる機会をもてるようにする。また、漢字の学習において、熟語の成り立ちや語句の由来について触れていく。
話すこと・聞くこと	○領域の平均正答率は、市の平均正答率と同程度である。 ○相手の話を聞き、その内容を捉える問題の正答率は98.3%であり、特によくできている。しっかりと内容を考えながら聞く態度が身に付いているものと思われる。	・引き続きICT機器やホワイトボード等を用いた意見交換の場を積極的に設ける。また、自分の立場を明確にしたり、友達の意見を聞いて自分の考えを発表したりするような活動や討論会等を充実させる。
書くこと	○領域の平均正答率は、市の平均正答率と同程度である。 ○文章を書くときに使われた工夫を問われた問題の平均正答率は、市の平均正答率を11.8ポイント上回った。 ●自分の主張を複数の条件に合わせて書く問題の平均正答率は、市の平均正答率を2ポイント以上下回っている。また無回答率が10.3%と市よりも高くなっている。	・総合的な学習の時間・社会科などの調べ学習で、集めた情報を整理して目的にあった文章を書くことを継続していく。 ・話し合い活動等を通して、相手の意見をきちんと受け止めた上で自分の考えを再構築するなど、教科横断的な取組を通して、「考えて書く」ことへの抵抗感を減らしていく。
読むこと	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を5.4ポイント上回っている。 ○物語や説明文の内容を描写や叙述を基に捉える問題の正答率は、市の平均正答率を5ポイント以上上回っている。 ●文章の全体像を想像して文中に使われている言葉の意味を選択する問題の平均正答率は、市の平均正答率を2.4ポイント下回っている。	・物語文では、文章をよく読み、叙述をもとにした読み取りを継続して指導していく。 ・文章のあらすじや要旨をまとめる活動をしたり、国語の時間以外でも、グループや全体で意見や感想を共有したりする場面で、話の全体像を思い起こして考えられるようにする。

宇都宮市立陽東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	75.9	70.3	66.4
	農業や水産業	88.1	81.6	75.3
	工業生産	92.7	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	94.1	91.0	81.3
	日本の政治	77.5	73.2	75.3
	日本の歴史	76.9	67.4	68.5
観点別	知識・技能	81.1	73.5	72.5
	思考・判断・表現	81.9	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

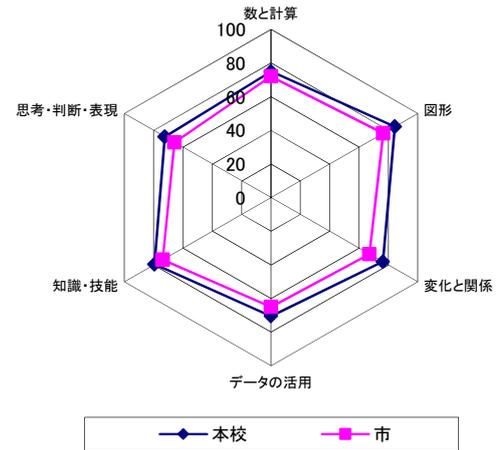
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<p>○領域全体では、市の正答率を5.6ポイント上回っている。特に、日本の周辺の海洋名を答える問題は、正答率が89.8%と高かった。</p> <p>●季節風について答える問題では、市の平均を7.6ポイント上回っているものの、正答率は66.1%だった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 従来の地球儀や地図帳に加えて、1人1台端末を使ってインターネットの地図サイトを活用していく。 地形や地名に関して得た知識と現地の様子をつなげることで、国土や自然環境に関する理解を深めさせる。 ノートに絵や図を描いてまとめることで、地名や地形の位置関係をつかめるような授業を展開する。
農業や水産業	<p>○領域全体では、市の正答率を6.5ポイント上回っている。どの問題も高い正答率であるが、特に魚の出荷作業における工夫を問う問題の正答率は、98.3%であった。</p> <p>●米の品種改良について資料を読み取る問題では、正答率は市の平均を6.6ポイント上回っているものの、正答率が72.9%とやや低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、農業や水産業と自分たちの暮らしとの結び付きが分かる写真や映像を重視し、使用していく。 表の読み取りに時間をかけ、表から何が分かるかを考える授業を展開する。 身近なニュースを取り入れながら、日本の食生活と自分たちの生活を結び付けて学習を進めていく。
工業生産	<p>○領域全体では、市の正答率を5.7ポイント上回っている。自動車づくりについて資料を基に考える問題では、正答率が94.9%であった。</p> <p>○日本の貿易の変化について答える問題の正答率は89.8%と高く、市の正答率を12.4ポイント上回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 社会的な見方・考え方を育てられるように、資料を読み取る際に、ポイントとなる重要語句に目を向けさせ、それらがどう関係しているのか十分に思考を深める。 資料の読み取りの時間を十分確保し、資料から分かったことを基に考えを自分でまとめたり、話し合ったりしながら、工業生産の概要を理解できるようにする。
産業と情報との関わり	<p>○領域全体では、市の正答率を3.1ポイント上回っている。わたしたちの生活と情報や環境との関わりについて、よく理解しているといえる。</p> <p>●近年起きた自然災害の発生場所を理解しているかを問われた問題の正答率は、市の平均を7.5ポイント上回っているものの、正答率は67.8%と低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 情報を生かす産業について、身の周りの生活から事例を取り上げるようにする。また、インタビューなどを基に自分の考えを深めさせる。 災害ニュースと地図帳を連動させ、発生場所の地形的な特徴を確認するような授業を展開する。
日本の政治	<p>○領域全体では、市の正答率を4.3ポイント上回っている。特に、日本国憲法についての理解度が高い。</p> <p>●租税の役割について理解する問題の正答率は62.7%で、市の正答率を4.3ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日本国憲法については、教科書の内容と自分たちの生活を結び付けて考えながら、授業を振り返っていけるようにする。 新聞やニュースなどから政治に関する話題を積極的に取り上げることで、さらに政治への関心を高めていくとともに、税金の使い道などに触れ、生活と結び付けて考えることができるようにしていく。
日本の歴史	<p>○領域全体では、市の正答率を9.5ポイント上回っている。特に、奈良時代や平安時代の問題の正答率が高い。</p> <p>●織田信長の業績を答える問題の正答率が、66.1%であった。市の正答率を2.6ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、社会科見学や修学旅行等を活用するなど、歴史に対して様々な方法で触れさせていく。 教科書の写真資料と出来事を結び付けて理解を深めるとともに、興味をもった出来事や人物について主体的に調べたり、まとめたりする活動を通して、歴史の流れや先人の業績を理解できるようにする。 時代を整理して歴史的事実として覚えるだけでなく、歴史的価値や因果関係をつなげて考えられるような学習を展開する。

宇都宮市立陽東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	75.0	72.1	74.6
	図形	84.4	76.5	76.1
	変化と関係	76.3	67.1	59.7
	データの活用	70.5	65.0	64.5
観点別	知識・技能	79.3	73.8	74.7
	思考・判断・表現	72.5	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

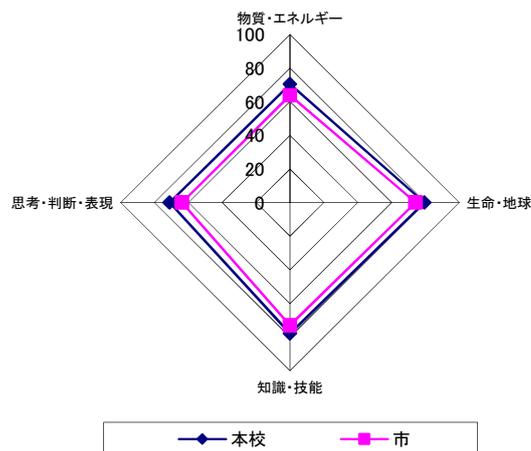
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○領域全体では、市の正答率を2.9ポイント上回っている。特に分数の計算で真分数÷整数(約分1回)の問題の正答率は、市の正答率を14.1ポイント上回っている。</p> <p>●分数の計算において、比較量が基準量の何倍になるかを求める式を選択する問題の正答率は47.5%であり、市の正答率を4.7ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文字を使った式について、文字を使うことのよさやそのしくみを復習し、プリント学習などで補充を行って定着を図る。 数を置き換えたり、実際に計算して図と比較するなどして、比較量と基準量の関係を捉えられるようにしていく。
図形	<p>○領域全体では、市の正答率を7.9ポイント上回っている。特に線対称な図形について、対応する点の性質の理解を問う問題の正答率は、市の正答率を18.4ポイント上回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いで図形の特性や作図方法の吟味をするなど、互いに考えを深める活動を取り入れることで、図形分野での表現力が身に付いてきたので、今後も継続していく。 具体物を用いたり、実際に操作させたりして図形をイメージする力をさらに高めていく。
変化と関係	<p>○領域全体では、市の正答率を9.2ポイント上回っている。</p> <p>○基準量と割合から、比較量を求める問題では、市の正答率を17.6ポイント上回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 概念的な内容について、具体的な言葉や図などを用いて言語化する活動を授業内で取り入れてきたため、力の定着につながったと考えられるので、今後も継続していく。 日常生活と関連付けたり、図やグラフで視覚的に捉えさせたりして、実感を伴った理解を深められるようにする。
データの活用	<p>○領域全体では、市の正答率を5.5ポイント上回っている。特に円グラフの読み取りの問題の正答率は、市の正答率を7.7ポイント上回っている。</p> <p>●ドットプロットから最頻値を読み取る問題の正答率は、市の正答率を3.1ポイント下回っている。また、ヒストグラムの特徴を読み取り、説明をする問題の正答率は50%を下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> データの読み取りは、他教科でも取り扱うことが多いので、日常生活と関連付けて説明することで活用できるよう意識して指導する。 代表値それぞれの特性の理解度は高いが、それらを利用して資料を読み取ることがうまくできない児童が多いので、資料から読み取ったことに対して、その理由や根拠を明らかにして説明する活動を取り入れ、活用する力を身に付けられるようにする。

宇都宮市立陽東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	70.4	63.8	61.6
	生命・地球	79.3	74.1	73.3
観点別	知識・技能	77.9	73.0	71.3
	思考・判断・表現	71.1	63.8	62.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○市の正答率を6.6ポイント上回っている。</p> <p>○電流の働きの内容では、どの問題も市の平均正答率を大きく上回った。特に電磁石の力の強さを変える要因を指摘する問題では、市の平均を25.1ポイント上回っていた。</p> <p>●水溶液の性質に関する問題では、それぞれの水溶液の判別方法を考える記述問題で、市の平均を8.9ポイント下回った。</p>	<p>・実体験を重視した授業を充実させ、予想や仮説を基に条件を制御しながら実験を適切に行う技能を高めていく。</p> <p>・主要な物質の性質や働きについて、観察や実験を通して分かったことを図や絵、文を用いて表現したり説明したりする活動を取り入れた授業を展開する。</p>
生命・地球	<p>○市の正答率を5.2ポイント上回っている。</p> <p>○流れる水のはたらきの内容では、どの問題も市の平均を10ポイント以上上回っていた。</p> <p>●心臓と血液のはたらきに関する問題では、市の平均を1.7ポイント下回った。</p>	<p>・実物を提示したり、模型を用いて実験をしたりするなど、体験的に学習することで理解を深めていく。</p> <p>・動画等も活用しながらイメージを膨らませるとともに、理解したことを名称を使ったり、働きを整理したりしながら説明する経験を今後も積み重ねていく。</p>

宇都宮市立陽東小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・ペア学習やグループ学習を中心とした学び合い	・様々な授業の中で、ペア学習やグループ学習での学び合いの場を意図的に設定する。	・「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」についての肯定割合が、市の平均と同程度を上回っている。また3～6年では「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる」についての肯定割合がどの学年も市の平均を上回った。
・学ぶことを楽しむ児童の育成	・授業において体験的な学習を多く取り入れたり、振り返りの仕方を工夫したりすることで、自己の学びを実感することができるようにする。	・「勉強が好きですか」についての肯定割合は、全学年で市の平均を上回った。2・4・5・6学年においては市の平均を10ポイント以上、上回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・6年生では全教科において、ほぼすべての領域および観点で市の平均や参考値を上回っている。今後も基礎・基本を大切にしながら、発展的な課題にも取り組み、知識を活用できる力を伸ばしていきたい。

・本校では知識・技能だけではなく、思考力・判断力・表現力を使って答える問題の正答率が市の平均と比べて高い。どの教科においても、授業の中で根拠を基に自分の考えをもち、書いたり話したりする活動を取り入れてきた成果だと考えられる。また、1人1台端末を利用することで、自分の意見を表現したり推敲したりすることが容易になったことも関係していると思われる。次年度も根拠を基に自分の言葉で表現する活動を効果的に取り入れ、児童の学びを深めるためのツールとして、1人1台端末を活用していきたい。